

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400291	事業の開始年月日	平成25年11月1日
		指定年月日	平成25年11月1日
法人名	ヒューマンライフケア（株）		
事業所名	ヒューマンライフケア 多摩の宿		
所在地	(214-0004) 神奈川県川崎市多摩区菅馬場1-25-30		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25 名
		通い定員	15 名
		宿泊定員	9 名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成26年1月2日	評価結果 市町村受理日	平成27年12月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/Details.aspx?IGNO=ST1495400291&SVCD=730&THNO=14130
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしく」をモットーにひとりひとりの持っている能力を最大限生かして頂ける様な接し方・取り組みをしています。
また、自立支援を行うために、利用者様のできる事に注目し、ご自宅での生活がそのまま事業所でも再現できるよう支援しています。
利用者様・スタッフが家族のように一緒に生活していく事を目標としています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成27年2月4日	評価機関 評価決定日	平成27年4月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、J R 南武線中之島駅より徒歩 1 0 分の、静かな住宅地の一角にあります。近くには多摩川から取水している二ヶ領用水路があり、両側の遊歩道は散策を楽しむ絶好の場所となっています。同一運営法人のグループホームが併設されています。

＜優れている点＞
「笑顔と家庭的雰囲気大切に、職員のチームワークで利用者に安心・安全な環境を提供する」旨を盛り込んだ事業所理念のもと、自宅と通所介護の場との関連性を最大限利用して、一人の利用者に同じ介護者が夜勤・通所・訪問に携わり、利用者へ24時間切れ目のない支援を提供しています。
本人主体のサービス・見守りの介護に重点をおき、職員は利用者に寄り添いながら利用者の出来ることを一緒に楽しく行い、利用者の自立支援を応援しています。

＜工夫点＞
職員の訪問時の気づきを大切にしています。利用者や家庭内の様子をビューポイントで見て、感じ、把握し、その時々の利用者の状態から必要なサービスを瞬時に把握して、臨機応変なサービスを提供しています。
サービス内容を職員間で共有するために、申し送りノートをフルに活用し、職員は利用者の情報の共有に努めています。
年1回、本社職員及び管理者が職員と個人面談の機会を設け、職務に関しての希望や不安を聞き、働きやすい職場環境を目指しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ヒューマンライフケア 多摩の宿
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にっている。	事業所開設時に全職員にて理念作りを行った。理念は事業所事務所入り口に掲示し、職員・来所者共に共有している。ケア内容に不安を感じた場合は、理念に立ち返り検討している。	開設時に職員全員で話し合い作成した理念を、事務所入り口に掲示して事業所の姿勢を示しています。職員は、利用者が住み慣れた地域での暮らしを継続するためには、どう支援すべきか理念に基づいて話し合い日々の業務に活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議・自治会への加入等実施。事業所のお祭りの際、介護相談会のご案内を近隣へポスティングした。まだまだ交流が少ないためアピール活動を行っていきたい。	事業所開設後1年余りが経過し、自治会への加入など地域に根ざした事業所を目指しています。事業所の秋祭りに5～6名の住民が見学に来ています。祭りの最中に開催した介護相談の開催を今後も予定し、園芸・ハーモニカ演奏のボランティアも来訪しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今後の課題である。行事に関連させ介護相談会のお知らせをしたが、実際利用された方はいない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	概ね2ヶ月に1度実施している。出された意見を率直に受け止め、改善を図っている。	2・3階の同一運営法人のグループホームと合同で運営推進会議を2ヶ月に1回開催しています。参加者は利用者家族、地域住民代表者、地域包括支援センター職員などで、活動内容の報告と災害時の地域連携などで意見交換をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括のケア会議等参加している。	多摩区介護認定課には介護保険申請及び更新時に出向き、福祉課には生保担当者に状況報告をしています。行政職員、居宅介護支援専門員、自治会役員などが参加する地域包括支援センター主催のケア会議では事業所と地域の関わりなどについて話し合っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束実績無し	拘束をしない介護の実践を事業所の基本姿勢としています。職員は社内外の研修で身体拘束とその弊害について熟知し、拘束の無い支援の実践に努めています。言葉の拘束に関しては、研修で学ぶほか、支援の場で個別に注意をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	訪問時や送迎時等家庭内の環境等観察している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者によっては必要制度であり、あんしんセンターや後見人制度のご案内を家族に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は時間を掛け内容を説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にて意見聴取している。推進会議には全利用者様にご案内を配布している。	家族会は設けていませんが、運営推進会議で家族の意見を聞いています。席上「職員に名札をつけてほしい」との要望などが出て実現しています。日常的に連絡ノートを紹介したり、送迎時の家族との会話から意見や要望を聞き、支援の場で活かしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	頂いた意見は率直に受け止め、今後の運営改善に反映するよう努力している。出された意見は職員会議等で検討する。	管理者とケアマネジャーは日々現場に入り職員とともに利用者支援にあたっている関係で、職員からの意見を直接聞くことが出来ます。さらに業務の見直しなどについては、申し送りノートに記載し職員間で共有しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の能力に応じ非常勤⇒契約社員⇒正社員⇒管理者⇒センター長⇒ブロック長等へステップアップする機会がある。また、自社独自の資格制度を取り入れ、手当での支給等も踏まえスキルアップできる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフの力量を判断し必要な研修への参加打診やOJTを行っている、		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	連絡会に参加しているが中々出席できていない。今後横のつながりを保つためにも積極的に参加していく。また、法人内他事業所の研修受け入れを実施している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回は管理者・CMと共にご自宅訪問を実施し、状況観察と共に、ニーズを把握している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初回は管理者・CMと共にご自宅訪問を実施し、状況観察と共に、ニーズを把握している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初回は管理者・CMと共にご自宅訪問を実施し、状況観察と共に、ニーズを把握している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	同じ目線で考えケアを実施している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の思いを受け止める努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの美容院等必要であれば送迎を行っている。	利用者や家族との会話から馴染みの関係を把握し、友人の面会や馴染みの理髪店の出張を受け入れています。美容院への送迎や主治医への受診付き添いなど、今までの生活スタイルが継続できるように支援しています。銀行や行政手続きにも同行支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者ひとりひとりの時間や空間を大切にしながら、集団での活動にもお声掛けをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後でもご相談を受けるケースあり。随時相談に応じアドバイスを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントやご本人・ご家族との会話等で情報収集を行う	本人や家族との会話から利用者の思いや意向の把握に努め、把握した情報は申し送りノートと個別記録に記載し職員間で共有し、日常の支援に活かしています。家族とは利用者の視点で話し合い、本人が安心して在宅生活を送れるような支援につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントやご本人・ご家族との会話等で情報収集を行う		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントやご本人・ご家族との会話等で情報収集を行う		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に1度検討会を実施し、プラン内容が合っているか話し合いを行う	自宅を訪問して本人の生活歴や現在の心身の状況などを把握し、本人・家族の思いや意向を加味して期間を定めた介護計画を作成しています。1ヶ月単位のモニタリング表を作成し、ケース会議で検討し、家族の意見を入れながら状況に合ったプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づいたことは介護記録へ記入。介護記録は業務に入る前に確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時の利用者の様子でサービス愛用を随時変更している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご近所の方の力を借りることもあり。送迎時や訪問時ご近所の方にお会いした場合ご挨拶や情報収集をするようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診の必要性を判断した場合、ご家族とご相談の上、速やかに受診できるよう手配している。	利用開始時に利用者のかかりつけ医を把握しています。家族と連携し出来るだけ利用者のかかりつけ医への受診を支援しています。その際には必要な情報を家族へ提供し、受診結果を家族と共有しています。家族の都合で職員が受診に同行することもあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師との情報共有は十分できており、医療と連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを作成したり、退院時のカンファレンスへ参加している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事業所でできる事、ご家族・ご本人のニーズをすりあわせし、ご本人の想いに沿うよう対応している。状況に応じては別事業への連携を行う。	訪問診療と訪問看護を利用しながら、本人・家族と話し合いを行い、合意を得ながら医療従事者と事業所職員が連携して看取りに対応することが可能です。現在、看取りの職員研修を進めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員を随時救命救急研修へ参加させている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練の実施はしているが、不安点はある。地域の方との協力体制も未実施であり、今後の課題である。	日中の火災発生を想定した避難訓練を行っています。事業所はすべて1階にあり段差もなく屋外に非難できます。2～3階の同一運営法人のグループホームとは、災害時には連携して対応することとしています。	夜間における火災発生の際と、地域の協力を得た避難訓練を行うことが期待されます。地震などの災害や停電に備えて、必要な備蓄などの対応を行っておくことも期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その方を大事に接している。	利用者一人ひとりの出来ることを尊重し、生活を支えることが大切と考えています。事業所内の生活においては出来るだけ個人の生活ペースに合わせ、集団での行動とならないように配慮しています。毎月標語を掲げてマナー向上活動をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人のニーズは何か、また、声なき声に気づくよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	おひとりお一人の時間や空間を大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容の取り入れや、その方の馴染みの美容院への送迎、今まで同様にご近所の方が散髪に見えたりと、その方が今までの生活で行ってきた身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その方ができる事に参加をして頂く機会を設けている。	利用者の好みにより、補食をつけたり、おにぎり、パンなどでの対応もしています。希望により懐かしい歌など聞きながら食事をしています。イベントとして、利用者同士で話し合い、食材を皆で買物に行き、お好み焼きなどを作って楽しむ事も有ります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方のペースや食習慣を大事にしている、できる限り対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後実施		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	おひとりお一人に合った声掛けや誘導を行っている。	事業所と自宅で過ごす時間の連続性に配慮して、一人ひとりの水分摂取量と排泄状況を把握し、必要時声掛けやトイレへの誘導を行っています。夜間のオムツ使用については、本人の安心感と家族の介護量軽減を考え、本人と家族と話し合って対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分チェック表の確認と共に、その方の様子により、個別の食品を取り入れ提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご本人のご希望する時間に入浴できるよう努力している。	入浴は、出来るだけ希望する日と時間に入浴できることが大切と考え、午前・午後に入浴時間を設け、同性介助の希望にも対応しています。泊りの際は夜間の入浴も可能です。自宅での入浴を希望する場合には訪問介護にて対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の生活スタイルを重視し、事業所での決まった消灯・起床時間は設定していない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬管理の実施を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その方のお好きなことや能力が発揮できる場面を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その方の能力を判断しご家族了承のもと、おひとりでの外出も許可している。買い物等ご希望時に実施できるよう努力している。	利用者の生活に必要な買物支援や銀行などへの同行支援を家族と相談して行っています。電車やエスカレーターの利用など利用者の移動能力を考慮し、行き先・帰り時間を確認し、携帯電話を所持してもらうなどの配慮の下一人での外出も可能となっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人・ご家族様との相談の上、個人個人に合わせた金銭管理を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話の使用や状況に応じ、事業所の電話での取り次ぎ等実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の壁絵等工夫し季節感があるフロアづくりを行っている。また、泊まり利用時の居室はその方の過ごしやすい配置にしている。	オープンキッチンのある居間兼食堂には、電気ポットとティーパック入りの緑茶・紅茶などが置いてあり好きな時に飲めます。新聞2紙を置き家庭的な雰囲気できつろげるように配慮しています。庭に畑コーナーを設け土いじりを好む利用者が手入れをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個々のそれぞれの時間を大事にしており、居室や玄関のベンチ等利用したり、フロアの座席を固定せず、好きな場所に座って頂くようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	泊まり時は使い慣れた家具や電化製品等の持込をして頂き、自宅内と同じように生活して頂いている。	ベット・布団・クローゼットを備えた洋室を5部屋、和室を4部屋用意しています。利用者は使い慣れた家具や電気製品など好きなものを持ち込めます。利用者と家族の要望を考慮し、室内の配置を自宅と同じようにすることも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できる事は全て行って頂いている。また、自宅でできる事は事業所でも同じように行って頂き、事業所でできる事は自宅でもできるように環境を整えたりご家族の協力を頂き、自立支援を行っている。		

平成26年度

目標達成計画

事業所名 ヒューマンライフケア 多摩の宿

作成日： 平成 27年 4 月 20 日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	夜間を想定した避難訓練や災害時の地域との協力を想定した訓練が未実施であり、災害時の対策が不足している	いつ災害が起こっても、全職員が落ちついて避難誘導が出来る	夜間の災害発生を想定した避難訓練の実施や、地域の防災活動への参加をする事で、何かの時にはお互いが助け合える関係作りを構築する。	12ヶ月
2	4	運営推進会議のあり方について検討していく必要がある。現在は、家族会のようなイメージになってしまっている。	運営推進会議の本来のあり方や趣旨を理解した中で、適正な推進会議が開催できる。	運営推進会議のあり方や趣旨を事業所側でしっかりと理解し、参加メンバーへお伝えする。推進会議での意見を評価し対応実施する事で地域の中での役割を再確認する、	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月